

レールマウンテンバイク 「Gattan Go!!!」 ～自転車とレールで風になる～



岐阜県飛騨市

特定非営利活動法人 神岡・町づくりネットワーク



手づくり郷土賞
について

受賞記念発表会

講評

大賞部門

一般部門

資料編

① 社会資本の概要

岐阜県飛騨市神岡町は、古くから鉱山の町として発展してきた山あいの町で、この町には「神岡鉄道」という鉄道が走っていました。鉱山からの貨物の運搬や地域住民の足として、奥飛騨の豪雪地帯にありながら、国道が積雪のために不通になった日にも1日も休まず、地元住民の生活を支え続けた自慢の鉄

道でしたが、鉱山事業の縮小やそれに伴う地域人口の減少などにより、平成18年に廃線となりました。しかし、その雪深い鉱山の町を支え続けた旧神岡鉄道の面影や、軌道・トンネル・高架など、先人たちの熱意で築いた鉄道遺産は「町のシンボル・地元民のルーツ」といえました。



春の神岡鉄道



鉱山の町・神岡を支えた神岡鉄道

② 取組の背景、取組概要と創意・工夫

町のシンボルともいえる鉄道遺産を活用した、廃線となった線路の上を走る新感覚のアクティビティ「レールマウンテンバイク」を地元鉄工所なども連携して開発、運営しています。鉄道資産を自分たちの手で作った「乗って楽しい」乗り物を走らせることで「そのままの形」で保存し活用したい、そして残された鉄道資産を取り巻く「町並み」を子供達の世代に語り継いでいきたいという思いが原点で

す。創業当初はイベント的な運行でしたが、平成24年から平日を含めた毎日の運行を開始しました。年間の利用客数は4万人を超え、周辺の観光地にも大きな波及効果を生み出しています。また、鉄道保全活動を深め町おこしを進めるため、全国応募者によるマクラギ交換体験会や廃線路ウォーキングなど多彩なイベントを開催し、啓発活動も続けています。



専用のマウンテンバイクで廃線レールの上を走ります。奥飛騨の町並み、スリル満点の渓谷の景色が広がります。

③ 活動の成果や波及効果等

全国的にも類を見ない乗り物のカタチ、地元住民が中心となって活動していることから、マスメディアへの高い露出があり、閑散としていた過疎の町が一躍脚光を浴びました。

平成29年には、旧神岡鉄道の「おくひだ1号」の復活運行をメインとした「ロストラインフェスティバル」を開催。この中では、全国で廃線を使った観光利用、町おこしをする団体を招いたシンポジウム開催や、情報交換、相互交流を目的とした「日本ロストライン協議会」設立などもあり、活動を全国に広げています。

平成30年には既存の「まちなかコース」に加え「渓谷コース」を新設。魅力向上による更なる利用者増を目指しています。



平成29年に行われた「おくひだ1号」復活運行

●● 喜びの声 ●●



受賞者

特定非営利活動法人 神岡・町づくりネットワーク
理事長 鈴木 進悟

コメント

今回の表彰ありがとうございます。
平成14年から16年間活動してきました町づくりに対する評価が認められ、勇気を与えられた気持ちです。今後も町の活性化に時代とともに変化する環境の中、アイデアを出し続けていこうと思います。

活動の内容

- ・レールマウンテンバイク (RMTB) 事業運営
- ・町づくりボランティア活動
- ・町並み環境保全
- ・文化の継承
- ・他団体への協力 等

活動の経緯

- 平成14年 NPO法人 神岡・町づくりネットワーク設立
- 平成15～ ふるさと散策の道
- 17年 (がおろの道) 計画・整備
- 平成19年 RMTB 運営開始
- 平成29年 日本ロストライン協議会設立

所在地

岐阜県飛騨市神岡町

活動主体及び連絡先

特定非営利活動法人 神岡・町づくりネットワーク
(090-7020-5852)

対象となる社会資本

飛騨市ロスト・ライン・パーク (旧神岡鉄道)
※管理者：飛騨市



手づくり郷土賞
について

受賞記念発表会

講評

大賞部門

一般部門

資料編